



青壮年部との意見交換が行われた



意見・要望を挙げる荒川青壮年部長

## 青壮年部からJAへ要望 JA常勤理事とJAうつのみや青壮年部との意見交換会

青 壮年部は11月24日、JAうつのみや本所にて、JA常勤理事との意見交換会を開催。意見交換を通じて青壮年部の行動指針である「ポリシーブック」の内容と青壮年支部の要望の周知を図り、JAと連携することで、青壮年部の活動を一層強化していくことが目的です。JA役職員、青壮年部盟友など43人が出席しました。

意見交換会では青壮年部執行部より、青壮年部の活動報告とポリシーブックを基にしたJAへの意見・要望が出され、JA直売所による販売力強化、JA職員の営農指導の育成強化が要望されました。

また、青壮年部支部からは、JA業務のデジタル化、米生産者の減少、耕作放棄地の増加への対策・水田の土地利用型園芸の導入についてなどの意見・要望が挙がりました。

今回の意見交換会について横松久夫組合長は「青壮年部の皆さんと直接意見交換ができる貴重な機会、意見・要望を頂いてJA事業に反映していきたい」と語りました。荒川真利青壮年部長は「多岐にわたる課題に不安がある中で、ポリシーブックで解決できない課題をJAの協力を得て解決していきたい」と今後の意気込みを語りました。

# 令和2年度役員担い手訪問報告

令 和2年9月4日から12月4日にかけて常勤役員4人が108軒の生産者宅を訪問し、191個の意見・要望が出されました。その中で意見要望が多い項目および特に重要な項目についてご報告します。（意見要望につきましては、要約されている箇所もあります。）

## 主な意見・要望と応答

**意** … 意見・要望    **応** … 応答

**意** 高齢化等により後継者不足が深刻化しており、農地の受け手となる担い手の確保を図つてもらいたい。

**応** 親元後継者の掘り起こしを行い、後継者が抱える課題の解決に努め就農の円滑化を図り新たな担い手の育成確保に取り組みます。また、土地利用型農業の後継者が特に不足しておりますので、地域・関係機関と連携し、人農地プランを踏まえ、集落営農の推進に取り組みます。

**意** これから農業は、集落営農や法人化しなければ経営継続は困難である。設立に向けた支援を強化してほしい。

**応** 今後の土地利用型農業においては、農地の集約や大型・省力化機

できるかと思います。組織の意向を踏まえ事業活用を検討するほか、活動および組織強化に取り組みます。  
**意** 地域の大規模農家と連携・委託し「民間活力」を実施してみてはどうか。そのため、JAももっと踏み込んで「地域づくり専任担当」を設置してみてはどうか。営農振興・担い手積立金で、「地域づくり」を目的とした事業があつてもよいのです。

**応** この積立金による支援事業の目的は農業者所得の向上に向けた規模拡大や、担い手確保など生産振興をメインにした取り組みとなります。「地域づくり」についてはJA単独では難しい課題であり、行政や地区組織などとの連携は必須であります。現状では「地域づくり選任担当者」の設置は予定できませんでした、営農経済センターを中心に地域の課題把握などを行い、各機関と連携し進めてまいります。

**意** 作付参考値（生産数量目標）を上している事例もあります。先進事例を調査し魅力に思えるような活動の提案を行います。また、雇用就農を希望する人も増えてきております。法人で人材を雇用し、育成を行った場合は、農の雇用事業の活用が

リット措置がなくなりましたので、今後とも政策誘導できる交付措置を国等へ求めていきます。米価安定には需要に応じた米の生産が不可欠であり、コロナ禍もあり令和3年は更なる転作拡大が必要となります。米の需給情勢や経営所得安定対策交付金等による転作メリットの理解促進を図り、農業再生協議会と連携し米価安定に向けた取り組みを進めます。

**意** JA積立金事業において、カメムシ被害が多いため、色彩選別機の導入やドローンの講習会費用の支援を検討してほしい。また、共同乾燥調製施設導入支援事業は、要件の割に助成額が低く予算拡充が必要ではないか。

**応** 「営農振興・担い手育成積立金事業全体予算を勘案すると、色彩選別機支援や講習会への支援、既存事業の予算拡充は困難であります。農業機械・施設の導入を検討の際は、補助事業の活用について、早期にご相談ください。

**意** 台風等天変地異により使用前のハウス施設が被害にあった場合、行政の補助金補助率が高くならないか。

**応** 現在、行政による災害支援は県

災害条例措置が発動した場合となつてお

り、支援対象となる被害は一部に限定されことから、適宜対応を求めてい

ます。また、昨年9月より園芸施設共済が拡充され新たな特約等により最高10割までの補償が措置されましたので、ご検討ください。

より園芸施設共済が拡充され新たな特約等により最高10割までの補償が措置されましたので、ご検討ください。

**意** 共同乾燥施設の集約整備について、稿葉枯病対策として「どちぎの星」など多品種の受け入れができる施設を検討してほしい。また、乾糀や粗玄米の受け入れについても検討してほしい。

**応** 令和2年度では、「乾糀」の荷受けは実施しておりませんが、「どちぎの星」については、南河内ライスセンタ・上三川カントリー・エレベーターで、「粗玄米」については、北部ラック倉庫で荷受けを実施しました。新たに設置する施設については、「JAうつのみやの集荷施設集約整備について、収穫・管理作業に影響のない搬入時間・距離を考慮して設置していただきたい。

**意** 今後、當農部門の事業改革における施設のスリム化が必要とされます。集約・再編内容は現在未定ですが、取り組みにご理解下さいますようお願いします。

**応** 本年度加工プロツコリーの栽培にご協力いただきました。生産体制・栽培管理体制・労務体系等含めて當農経済センター連携のうえ対応いたします。

**意** 畜産課職員数の確保をお願いしたい。事務量・現場対応量（早朝出荷・帰所事後処理）の現状にあたる職員数をぜひ確保していただきたい。

**応** 無理のない勤務体制が図れるよう、適正な職員配置に努めます。

**意** 営農資材のWEB購入、生産履歴や書類のデジタル化によりオンラインでの記帳・提出などを進め、郵送や配布等のコストと労力削減を行い、當農指導強化や施設の整備を充実してほしい。

**応** 肥料・農薬については、全農とWEB受注システムの導入を今後検討してまいります。現在、生産履歴等一部でデジタル化を検討しておりますが、各種事業でスリム化を図り當農指導の強化を目指しています。

**意** 人事異動に關しましては、口一通でありますので、5年以内は異動しないように努めます。また、引き継ぎ内容を充実させる等、生産者組織について検討します。

**意** 全農の青果物広域集出荷施設による選果場の広域利用・集約による他JAとの統一出荷規格について、十分検討し、生産者に理解さ

れ、有利販売につなげてほしい。

**応** 生産者の所得向上を目的に参画することから、生産者代表・JA・全農が一体となつて今後協議を進めることがあります。協議内容は各組織を通じて都度ご案内いたします。

**意** JAうつのみやの集荷施設集約整備について、収穫・管理作業に影響のない搬入時間・距離を考慮して設置していただきたい。

**応** 今後、當農部門の事業改革における施設のスリム化が必要とされます。集約・再編内容は現在未定ですが、取り組みにご理解下さいますようお願いします。

**意** 加工ニンジン・加工プロツコリーを作付しているが、この地域ではどんな露地野菜が適しているのか教えていただきたい。

**応** 本年度加工プロツコリーの栽培にご協力いただきました。生産体制・栽培管理体制・労務体系等含めて當農経済センター連携のうえ対応いたします。

**意** 資材経費削減対策で「自己取り引き」の在り方を考えるべきだ。

**応** JAとしても、自己取り引きの在り方も含め今後も生産資材価格引き下げへの取り組みを進めてまいります。

**意** 営農資材のWEB購入、生産履歴や書類のデジタル化によりオンラインでの記帳・提出などを進め、郵送や配布等のコストと労力削減を行い、當農指導強化や施設の整備を充実してほしい。

**応** 肥料・農薬については、全農とWEB受注システムの導入を今後検討してまいります。現在、生産履歴等一部でデジタル化を検討して

おりますが、各種事業でスリム化を図り當農指導の強化を目指しています。

**意** 営農指導員は知識や経験が重要、農家所得にも直結するため、短期間での異動がないよう人事異動には十分分配慮願いたい。

**応** 人事異動に關しましては、口一

通でありますので、5年以内は異動しないように努めます。また、引き継ぎ内容を充実させる等、生産者組織について検討します。

**意** トマトの選果場を利用しているが、販売面でプラスになつてているのかわからない。

**応** トマトにおいては、ここ数年販売苦戦が続く中で、実需の要望に応

運営等に支障が出ないよう対応するとともに、當農指導体制を再構築し対応を強化します。

## ボリューム感ある「満杯詰め」を 莓専門部宇都宮・河内で目ぞろえ会



### 苺

専門部の宇都宮支部と河内支部は目ぞろえ会をそれぞれの会場で開催しました。宇都宮支部は11月10日、宇都宮南部営農経済センターと姿川支所の2会場で3回に分けて開催し、部員や関係者が約100人出席しました。

令和3年産統一出荷規格および出荷申し合わせで、ボリューム感のある「満杯詰め」を基本にすることを確認しました。とちおとめのパックの詰め方や並べ方のポイント例をイラストで説明し、「ボリューム感のある商品作りを」と注意を喚起しました。目ぞろえでは、宇都宮の市場担当者がカラーチャートに合わせた出荷指導をし、「過熟果の出荷は厳禁で、品質重視をお願いしたい」と注意を呼び掛けました。

河内支所は11月13日、宇都宮市中岡本町の河内野菜集荷所で開催しました。部員や関係者約40人が参加し、規格の統一などを確認しました。現物目ぞろえ会では、市場担当者が、カラーチャートを使って、大きさや着色状態を説明しました。

## 適正基準で出荷を トマト専門部が目ぞろえ会

**T**マト専門部は11月9日、越冬トマトの目ぞろえ会を宇都宮市田野町の西部選果場で開催しました。部員や関係者23人が参加しました。鶴見明弘副専門部長が「抑制作から越冬作に移行する時期になった。きょうの目ぞろえ会で、規格を確認して、選果に努めていただきたい」とあいさつしました。

現物を並べた目ぞろえで、着色基準や形状、裂果・裂皮の規格を入念に確認しました。全農とちぎの担当者が、今後、全体量は増加を見込むため、売り場を広げた販売を行っていくとし、「JAうつのみ産の売り場を確保していくためにも、選果・選別の徹底をお願いしたい」と報告しました。



西部選果場で行われた越冬トマトの目ぞろえ会

## 整枝・剪定の技術学ぶ 梨専門部が講習会



梨専門部清原支部の剪定講習会

### 梨

専門部は11月20日に雀宮支部・城山支部、同月24日に河内支部・清原支部で剪定講習会を実施。清原支部の講習会は上籠谷町の圃場で実施。山口司支部長は「きょうの講習会でしっかりと学習して、自分の畠でも学んだ剪定方法を実践するという気持ちになってほしい」とあいさつしました。

県の担当者が今年の花芽の着生状況や整枝・剪定のポイントを説明しました。「徒長枝が乱立していても樹勢が強いわけではないので、樹勢をよく確認すること」と注意を呼び掛けました。実技講習では、①いらぬ枝②枯れている枝③花芽が着生していない枝などに注意しながら、実際に枝を切り落としたり、誘引を行いました。

## 目ぞろえで良質ニラ出荷を 専門部上三川支部



上三川営農経済センターで行われたにら専門部上三川支部の冬ニラ目ぞろえ会

にら専門部上三川支部は11月13日、冬ニラの目ぞろえ会を上三川営農経済センターで開催。部員や関係者50人が出席しました。入江重徳支部長が「コロナ禍の中でも季節が移り、ニラ出荷の最盛期が近付いてきた。良質の上三川産ニラを出荷できるように目ぞろえをしていきたい」とあいさつしました。

JJAの担当者が、販売情勢と販売基本方針を説明。「JAうつのみやのニラ」「栃木県産のニラ」が消費者から選ばれるように販売に取り組んでいくことを確認し、令和2年産の販売金額を2億8千万円、出荷数量を400㌧としました。出荷規格は30㌢～53㌢未満であるが、選果選別の目安として43㌢～48㌢を中心とするとも確認しました。現物目ぞろえでは、市場担当者が「長さをそろえて、見栄えの良いニラを出してほしい。脱気はしっかり行うことが大切」と説明しました。

## 年末に向けたユリの現地検討会 球根切花専門部

**球**根切花専門部は11月20日、ユリの現地検討会を宇都宮市内の5カ所の圃場で実施しました。部員や県・JAの担当者ら13人が参加し、年末に出荷を予定しているユリの生育状況などを確認しました。須藤智司専門部長は「新型コロナウイルス感染が拡大している。年末の出荷に向けた現地検討会で、現状をしっかりと把握して、良質のユリを出荷していく」とあいさつしました。

最初に、天谷充範さんの圃場を視察しました。天谷さんは「全体的に順調な生育だが、好天が続き生育が若干早いので、少し心配している」と生育状況を説明しました。この後、参加者は、4カ所の圃場で生育状況などを確認しました。



年末出荷に向けた球根切花専門部の現地検討会

## 2020年度のりんどう出荷を振り返る りんどう研究会通常総会・出荷反省会



来年の出荷に向けて活発に議論

**り**んどう研究会は11月19日、宇都宮市内で2020年度りんどう研究会通常総会・出荷反省会を開催。会員や市場、JA関係者、12人が参加しました。

通常総会では今年度の事業報告と次年度の事業計画案の設定が行われました。新型コロナウイルスの影響による消費動向の変化の中で、目ぞろえ会等で栽培技術取得に努めたことを報告。次年度は、技術研鑽を通じた生産事業の推進、研究事業等を通じた組織の強化拡大を図っていくことを報告しました。

出荷反省会では、市場担当者から今年度の反省と次年度の課題について、家の装飾や宅配需要があったことで単価が高かったことが報告。その上で、出荷量の増加、品質のさらなる向上が課題であるとしました。

今回の通常総会・出荷反省会について小林俊夫研究会長は「来年に向けて、価格や需要が心配な状況ではあるが、新型コロナに負けずに勉強し、事業を進めたい」と来年への抱負を語りました。

## 宇都宮産の花の消費喚起 足銀本店で花束販売

**宇**都宮市地産地消推進会議と宇都宮花きは12月4日、バラやユリの花束を足利銀行本店に納品しました。花の消費喚起の一環で、宇都宮市職員や市内企業や団体に対しても販売会を実施しています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、催事・業務向けの花の需要が低迷している宇都宮産の花きの消費喚起を目的に販売会を実施。

足利銀行本店で、JAうつのみやバラ専門部の横山貴一部長は「東京でもトップクラスの評価を得ているバラを、家庭に飾ることで心の安らぎを得てほしい」とあいさつしました。

足利銀行の森川隆弘執行役員・営業推進部長は「宇都宮にもこんなに素晴らしい花があることが分かった。今後もこのような企画があれば、積極的に参加していきたい」と話しました。



足利銀行本店に納品された花束

## 「とちぎ農業マイスター」11人 とちぎ農業マイスター認定証交付式



認定証を手にするイチゴ・アスパラガス生産者たち

**JA**と栃木県河内農業振興事務所は11月24日、「とちぎ農業マイスター認定証交付式」を開催しました。県は10月1日から新規事業「産地人材育成確保」のひとつ、新規就農者の指導役として県内初となる「とちぎ農業マイスター」として11人を認定しました。

農業協同組合などが事業を実施し、人材発掘から栽培指導、就農に向けての模擬的な農業経営までを一貫して行います。

研修生を受け入れたマイスター1人に対し、研修生受け入れに必要な経費や、指導能力向上を図る研修受講費等を年額最大50万円助成することで手厚い研修が期待できます。

認定者は次のとおり

篠崎和一、久保井弘道、北見和弘、上野崇、饗庭孝行、斎藤龍介、上野忠男、田口友章、石嶋元朝（イチゴ）相良律子、坂本浩（アスパラガス）

## 大谷の春菊・ピザ最高 宇都宮共和大留学生が「農業」体験

**宇**都宮共和大のベトナム人留学生ら24人は12月3日、半田農園の代表、半田貴也さんの宇都宮市大谷町の圃場でシunjギク収穫やもちつき体験、大谷石のピザ窯で焼いたピザの試食を楽しみました。

大谷グリーンツーリズム推進協議会と同大シティライフ学部の渡邊瑛季ゼミの学生8人が留学生の受け入れを担当。渡邊ゼミは、大谷の観光をテーマに活動を続けています。

留学生は、3密を避けるために2班に分かれ活動。ビニールハウスでシunjギクを収穫した後、ピザを試食したベトナム人留学生、チュオン・ティ・トイさんは「シunjギクは、ゴマ油でいためて食べるとおいしいと教えてもらったので、自分で料理して食べてみたい」と話していました。

ピザには、半田さんが栽培したシunjギクやネギなどの新鮮野菜をぜいたくに使用。焼きたてのピザを頬張った留学生は「すごくおいしい」「おかわりしてください」と元気いっぱいでした。



半田さんの圃場でシunjギクの収穫をする留学生

# 管内インフォメーション

## 消費拡大に貢献、生産者が訪問 (株)TKCへ牛肉納品

**宇**都宮市地産地消推進会議と宇都宮牛協会は12月18日、牛肉を株式会社TKCに納品しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、価格が低迷している牛肉の消費拡大を目的に実施しています。

牛肉の消費拡大を図る事業の一環として、宇都宮市職員、市内企業、団体に対して販売を行っています。今回、牛肉の消費拡大に貢献した市内企業の一つである、株式会社TKCに宇都宮牛協会の篠塚邦善副会長が訪れ、社内で牛肉を購入してくれた社員一人一人に手渡し、お礼を述べました。

篠塚副会長は「このコロナ禍の中でも、ご自宅で宇都宮牛を堪能していただけたらと思う」とあいさつしました。



購入者に牛肉を手渡す篠塚副会長(右)

## うつのみや管内の生産者が出品 第37回栃木県肉用牛総合共進会



共進会に参加した生産者

**和**牛改良専門部会は12月8日に開催された、第37回栃木県肉用牛総合共進会種牛の部に参加。当専門部会からは5人の生産者が雌牛を出品しました。

同会には、出品者以外にも、県内の和牛生産者や関係機関等が集まり、審査の様子を観覧しました。

共進会は月齢ごとに審査が行われ、若雌の部2区、若雌の部3区、成牛の部4区に分かれ、審査が雌牛の体型や種牛性（品格・雌牛らしさ）を基準とし行われました。当専門部会では若雌の部2区2頭、成牛の部4区に1頭を出品し、若雌の部2区において、株とこいブリーディングの出品牛が優良賞2席を受賞しました。

今回の共進会について、鈴木和弘部会長は「部会の力も着実に上がってきている。これを基に来年以降に上位を目指していく」と意気込みを語りました。

## 盟友が食を通じて地域を支援 青壯年部こども食堂・フードバンクうつのみやを支援

**青**壮年部はフードバンクうつのみやへ11月26日、昭和こども食堂へ11月27日に農産物の提供を行いました。今回、青壯年部では6月から行っている、昭和こども食堂へ農産物の提供の他に、地域への更なる貢献の一環として、「フードバンクうつのみや」への支援を行いました。

26日に行われた、フードバンクうつのみやへの農産物の提供では、コメとサツマイモを提供。当日は黒崎浩史副部長から、フードバンクうつのみやの徳山篤理事長へ農産物の受け渡しが行われました。提供された農産物は、「キズナセット」として配布されました。

27日には「キッズハウスいろいろ（昭和こども食堂）」を訪問し、食材を提供。今回で2度目になる提供では、ナシ、シイタケ、ハクサイ、ニンジン、ネギ、ニラ、イチゴを提供しました。

また、青壯年部の荒川真利部長は「JAうつのみや青壯年部として今後も持続的に地域の支援活動を行っていきたい」と今後の取り組みに意欲的です。



# 水稻

## 縞葉枯病に注意を



生育初期の発病：  
ゆうれい症状  
(県農業環境指導センター)



再生稻の発病  
(県農業環境指導センター)



生育後期の発病：  
出すくみ  
(県農業環境指導センター)

イネ縞葉枯病は、管内の南部を中心に発生し、中北部にも被害が広まっています。昨年11～12月に県農業環境指導センターが行ったイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(生息密度)は県平均で5・0%、県中部5・8%、県南部5・9%と県中南部では依然として保毒虫率の高い地点が確認されますので防虫対策を実施しましょ

## 縞葉枯病とは

この病気は、イネ縞葉枯ウイルスをもつたヒメトビウンカ(保毒虫)がイネを吸汁する際に感染するウイルス病で、平均20日間の潜伏期間を経て発病します。生育初期の発病は、心葉が黄白色になり巻いて垂れる「ゆうれい症状」を表し枯死します。生育後期には①穂が奇形になる②穂が出すぐみになる③不稔または充実不良になるなどの症状が出て、収量を低下させます。

## 縞葉枯病の伝播

イネ縞葉枯ウイルスはイネの他に麦類やトウモロコシ、スズメノテツポウなどのイネ科植物を犯しますが、これらの罹病した植物を吸汁したヒメトビウンカは保毒虫になり、一度保毒すると、卵を通して次の世代も保毒虫になりイネに加害を続けます。このため保毒虫の発生量と縞葉枯病は密接につながることになります。

防除基準では、保毒虫率が10%以下の地域であれば防除の必要はないとしていますが、県農業環境指導センターが11月に調査した結果、管内上三川町上三川で9・4%の保毒虫率になっています。

また、近年、管内全域で再生稻罹病株が散見されていますが、南部・上

三川地区で高い数値が出ている圃場がありますので注意しましょう。

## 防除対策

○抵抗性品種のとちぎの星・あさひの夢を作付けする。

○コシヒカリ・なすひかり等の罹病性品種を作付けする場合は、必ず箱施用剤でヒメトビウンカを防除する。

○また、抵抗性品種のとちぎの星・あさひの夢でも箱施用剤は使用し、

イネ縞葉枯ウイルスをもつたヒメトビウンカを防除していき保毒虫率を下げる

べき。具体的には、①凍結層が消えて土が乾いたらすぐに、②主茎の幼稈長が2cmになる直前までに行います。

なお、土壤水分が高いときの麦踏みは逆効果になるので控えましょう。

## ウンカ類に登録のある有効な薬剤

○殺虫剤  
ゼクサロンパディート箱粒剤  
○殺虫殺菌剤  
防人箱粒剤

○縞葉枯病の発生が多い地域で罹病性の品種を作付けする場合は、箱施用と併せて早植では6月上旬～中旬に田防除を行う。

○稻刈り後は速やかに、かつ丁寧に耕起し、ヒメトビウンカの越冬場所を無くす。

※広域で防除すると効果が上がりりますので、地域ぐるみで防除しましょう。

## 麦踏み

麦踏みは、根張りを良くし、有効茎

歩合や穗揃いの向上のほか、早期茎立ちを防ぎ幼穂凍死を回避します。

茎立ちまでに2回以上行います。

なお、土壤水分が高いときの麦踏みが逆効果になるので控えましょう。

具体的には、①凍結層が消えて土

が乾いたらすぐに、②主茎の幼稈長

が2cmになる直前までに行います。

なお、土壤水分が高いときの麦踏みは逆効果になるので控えましょう。

## 排水対策をしっかりと

麦の発根力は、茎立ち以降急激に衰えるため、既存の根ができるだけ長持ちさせることが大切です。排水不良は土の中の酸素不足を招き、根活力を低下させます。排水対策を施していない圃場は、早いうちに排水溝を設け排水路につなぎましょう。既に排水溝を設けた圃場は点検補修して季節はすれの大雨に備えましょう。

麦の発根力は、茎立ち以降急激に衰えるため、既存の根ができるだけ長持ちさせることが大切です。排水

不良は土の中の酸素不足を招き、根活力を低下させます。排水対策を

施していない圃場は、早いうちに排水溝を設け排水路につなぎましょう。既に排水溝を設けた圃場は点検補修して季節はすれの大雨に備えましょう。

## 雑草防除

麦の除草は、播種後の土壤処理によるものが基本ですが、雑草が残っている場合は、次表を参考にして茎立ち前に除草しましょう。

麦の除草は、播種後の土壤処理によるものが基本ですが、雑草が残っている場合は、次表を参考にして茎立ち前に除草しましょう。

## 主な生育期除草剤

主な対象雑草	薬剤名
ヤエムグラ	エコバートフロアブル
スズメノテツポウ	ハーモニーフォーム水和剤
イネ科広葉雑草	リベレーターフロアブル

(注)農薬のラベルは必ず読み、適正に使用しましょう

# 南河内支所

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします!



## 道の駅しもつけ

「道の駅しもつけ」は、下野市の新4号国道沿いにあり、地元の新鮮で安全な野菜や、カンピくんグッズを始めとした物産の販売、地元食材を活かした様々なグルメを楽しむ事ができます。また夜にはイルミネーションに彩られた建物が光り輝いており、連日大変な賑わいを見せています。

カンピくんとは、下野市特産品のかんぴょうの飴がモチーフになっている、道の駅しもつけのイメージキャラクターです。



多くの人々で毎日賑わって  
います



## 三王山ふれあい公園

「三王山ふれあい公園」は古墳と平地林を活かした都市公園として2018年3月11日に全面オープンしました。

約10haの敷地内には高さ10mの築山を中心に、オートキャンプ場やドッグラン、遊具など様々な施設を完備している市民の憩いの場となっております。また、近隣に入浴・温水プール・運動・交流のできる、ふれあい館があります。



三王山古墳  
などもあり市民に  
親しまれています

パネルで  
詳しい説明も



国指定史跡  
下野薬師寺跡

## 下野薬師寺跡

「下野薬師寺跡」は、7世紀末頃に建立された寺院で8世紀中頃には、僧の資格を得るための場である「戒壇(かいだん)」が設置され、奈良の東大寺、福岡の築紫観音寺とともに、日本三戒壇の一つに数えられ、東国唯一の寺として隆盛を極めたと伝えられています。



パネルで  
詳しい説明も

## 支所・センター電話番号

中央支所 028-633-3467

宝木出張所 028-622-6111

平石支所 028-661-4311

南部支所 028-656-1020

城山支所 028-652-0711

北部支所 028-665-0003

豊郷支所 028-624-8011

清原支所 028-667-0151

姿川支所 028-658-6881

上河内支所 028-674-3333

河内支所 028-673-3155

南河内支所

0285-48-2211

上三川支所

0285-55-1510

宇都宮北部営農経済センター

028-665-0550

宇都宮西部営農経済センター

028-658-6565

宇都宮南部営農経済センター

028-656-8484

宇都宮東部営農経済センター

028-660-3535

上河内営農経済センター

028-674-2164

河内営農経済センター

028-673-6911

南河内営農経済センター

0285-48-2215

上三川営農経済センター

0285-55-1511

## 各種お問い合わせはこちへ

■ キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル 0120-082065

■ 夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル 0120-258931

■ JA葬祭(24時間受付)  
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスアミリーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

■ LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配達  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先 028-633-0085